

## ○1番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより1番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

昨今のインフルエンザの猛威、私も妻と子ども4人、6人家族でもう既に5人がインフルエンザを経験しておりまして、皆さんの家庭におかれても、今の学校の学級閉鎖、学年閉鎖等を見ますと、そういう方が多数いらっしゃるのではないかなと心から心配しております。

既に本日が3日目ということで、さまざまな答弁がなされております。きのうまでの質問の中で、今の経済情勢の中、雇用対策等もいろいろと答弁されておりまして、その中でも豊田合成さんの大規模な設備投資によるLEDに特化されるという計画、答弁とか、また市長のブログ等、市のホームページ含めて、けさ、その辺の報道がなされておりました。300人規模の雇用も見込めるという明るい話題もありました。これについて、これは民間企業の内部事情ということではあると思いますけれども、平成20年3月に行われた組織再編により、武雄の方が福岡等に単身赴任をされているケースが多々見受けられます。これはあくまでも民間企業の事情であると思いますので、どうかと思うところはあるんですけど、可能であれば、そういう方を優先的に武雄に戻していただくというようなこともぜひ考えていただきたいなど、そういうことも相談していただければなと思っております。

また、白岩運動公園にあるトイレで、5カ所中4カ所の老朽化による改修というのでも答弁で出ておりました。それは大変ありがたいことであり、ぜひ行っていただきたいなど。身障者の皆さんを含めた利用者の皆さんが使いやすいトイレにしていきたいと考えております。その上で、追加でぜひお願いしたいのが、追加と言うとおかしいですかね、北方グラウンドのトイレであります。北方支所の裏のグラウンド横のトイレになります。あのトイレはかなり老朽化も進んでおり、1週間に1度、清掃委託をされておりますけれども、それ以外でも、北方グラウンドを使用されているザ・スパ武雄ベースボールクラブの中学生の子どもたちも練習の合間に、また練習の終わった後、トイレを清掃してくれたりしています。この子どもたちはグラウンドを使わせてもらっているということで、トイレの掃除、またグラウンドの草刈り、草むしり、いろいろとそういうこともやっていただいておりますので、ぜひこのトイレも改修計画にのせていただくことをお願いしておきます。

それでは、教育についてに入りたいと思います。

青陵中学校開校に伴い、以前からさまざまなことが心配になっておりました。この件に関しても、いろんな方の御意見等も聞き、リーダーのような人材が青陵に行って、子どもたちの人間関係のバランスが崩れるんじゃないかというような心配も伺ったことがありますし、この席で私も訴えてきましたことで、今はおかげさまで廃止になりましたけれども、入学時の抽せん等もありました。現在、中学3年生が、その抽せんの対象になった世代であります。思春期を迎える子どもたちに格差が生むひずみが何らかの影響を起こして、学校全体が荒廃

するようなことにつながるのではないかといった声も聞こえておりました。この席で、以前から私も危機管理を十分考えていただきたいと要望しておりました。

今回、初日の教育長の報告にもありましたように、中学校の生徒指導と申しますか、そういった中に、今回、スクールサポーターの配置ということを考えておられ、12月から実施されているということでもあります。そういったことについて、まずスクールサポーターの具体的な概要を御説明いただきたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

おはようございます。お答えをいたします。

スクールサポーターにつきましては、入っていただくことと、今回の事件が同時期となってしまったために、制度そのものやスクールサポーターの方等々に誤解を生じたのではないかと非常に残念に思っているところでございます。

毎月、子どもたちの生活態度等につきまして学校から報告をいただくわけですが、その中で器物損壊や教師への暴言、あるいは深夜徘徊等がございまして、職員、学校の先生方の対応も深夜になったり、休日等になったりという非常に厳しい状況があったわけでございます。その中で、行政としてできる対応がないかということをごまごま検討したわけですが、これまでスクールサポーターを配置していただいている学校の結果等を聞きましたときに、問題を抱える生徒に対して親身になって対応していただくことができるのか、あるいは教師の対応や指導に関してアドバイスや支援を行ってもらい非常に助かっているということ、あるいは少年犯罪等に関する識見や経験が豊富で、生徒の落ちつきどころがわかり、非常に面倒見がよいと多様な成果を上げているスクールサポーターの制度について考えたわけでございます。そういうことで、今回このようなスクールサポーターの導入をお願いいたしましたというところでございます。

したがって、その任務といたしてお願いしておりますのは、生徒の悩み相談、話し相手となっただきたい。同時に、その保護者の方も非常に苦勞されているわけでございますので、話し相手になっただきたい。あるいは、今言われておりますような薬物乱用とか、いろんな面での指導助言、あるいは学校への不審者侵入等への対応、通学路や校内危険箇所等の点検、あるいは民生委員さんや児童委員さんなどと連携して指導助言をいただきたいということでお願いをいたしているという状況でございます。よろしくお願いたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

1 番上田議員

**○1 番（上田雄一君）〔登壇〕**

保護者の皆さんも大変悩んでおられると。もう全くそのとおりで、私も非常に心配してい

るところであります。ただ、学校も何もしていないかと言われるとそうじゃないわけで、先ほど答弁あったように深夜までかかってでも生徒指導等にも大変御尽力いただいております。学校の先生方というのは大きくアンテナを張って、早期発見、早期対応を心がけながら、一生懸命教育活動に専念していただいているわけですが、あくまでもちょっとこれは私の感じていることになるんですけど、結果的にモグラたたきになっているような感じになるんじゃないかなと思うわけです。あっちで問題が起きたらそっちで対応して、こっちで起きたらまたそっちでも対応して、問題の一つ一つをそれぞれに対処していたのでは根本的な解決にはならず、同じような問題を何度も何度も対処していかんといかんというような状況になると受け取れるわけでありまして。子どもたちの健全育成を考えて市民全体が参加していくという面から考えると、このスクールサポーター制度というのは、子どもたちの非行の未然防止や抑止力、これが一番効果があるのかなと。あるいは学校と地域をつなぐパイプ役ということで、地域の安全確保までの効果を見込める非常にいいものではないかなと考えております。

武雄町まちづくり推進協議会からの要望にもありましたように、教育の充実について、将来を背負う子どもたちのために重点的にお金を使ってほしいという記載までであるということ、教育を充実させるためにはハード面、ソフト面を両輪として考えて費用をかけるべきと私は考えております。

また、これも6月議会でも申し上げましたけれども、今の中学校教育において先生が足りないという声をよく耳にします。これは先生1人にかかる負担がやはり極めて大きいということであると思うわけですが、先ほど深夜までかかったりというのも、そのあらわれになるんじゃないかなと思っております。

ただ、そういう中で、特に部活動というのは子どもたちにとって大切な活動になっており、多くの子どもが一生懸命活動しております。それを担当する先生方にとっては、中には自分の生活よりも優先して部活動の指導を行っていただいている熱心な先生方もいらっしゃいますけど、全体的に見ると、先ほどから出ておりますように、進路指導や学力指導、生活指導などに追われている状況で、思うように指導に時間が割けない、それどころかプライベートな時間もとれないという声も耳にしております。そうしたことから、中学校部活動への外部指導員の導入を推奨し、6月の補正予算で実施されている地域スポーツ人材の活用実践支援事業を行っていただいているわけですが、これについての状況が今どうなっているか、お聞かせいただきたいと思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

#### ○浦郷教育長〔登壇〕

中学生にとりまして部活動というのは非常に大きな意味を持っておりまして、本当に意欲

的に各学校、各部活動とも活発に活動をしているという状況がございます。

それで、お尋ねの地域スポーツ人材の活用実践支援事業ということでございますが、この事業による県から委託を受けて取り組んでいただいている指導者の方というのは、市内2名でございます。ただ、現在、全5校の運動部の12の部活動で計17名の方が御協力をいただいているという報告を受けております。野球5名、剣道4名、バスケットボール2名、サッカー2名、バレー、ソフトボール、陸上、相撲、各1名と学校からの報告はそうのように受けておりますけれども、実際に部活動を拝見しますと、またいろんな面でコーチとか指導をしていただいているという場面は見ておりますので、そういう方々にも非常にありがたく思っているところでございます。

### ○議長（杉原豊喜君）

#### 1 番上田議員

### ○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど答弁ありました市内全中学校5校に対して、全部で17名の指導員ということですね。雇用対策の一環として、先ほど申し上げました地域スポーツ人材の活用実践支援事業が採用されているものもあれば、ボランティアで御指導いただいている方もいらっしゃる。市内全部で17名、もちろんそれ以外にもいろいろと手助けしていただいている方がいらっしゃるということですが、これを多いと見るか少ないと見るかは別の機会に考えるとしても、こうした外部指導者で協力いただいている方々というのは、この時点でもうスクールサポーターのような役割になってきているんじゃないかなと私は思うわけですよ。だから、私は外部指導員の導入を推奨するわけですが、この外部指導員を採用する上で、幾つかの採用基準があるのは当然でしょうから、例えば、万が一事故など起きた場合の問題や、担当する先生や保護者、学校や関係機関との連携、あるいは経歴などといったものが関係するかなというふうに考えられるんですけど、これらのことは一定のルールを決めることによって解決できると思いますし、何より子どもたちの学校生活での優先順位が高い部活動であれば、一生懸命にやることで指導者のもとで子どもたちも素直に育ってくれるものと思っております。子どもたちの健全育成のために人材活用実践支援事業でもボランティアでも、雇用の形態は違っても外部指導者を募って運営することで先生方の負担が軽減し、子どもたちの部活動に対する思いにもこたえられると思っております。

ここでちょっと江北中学校の事例を紹介させていただきたいと思うんですけど、江北中学校は学校内に13の部活動があって、そのうち11が運動部、その中に7名の外部指導員、外部コーチといいますか、協力をいただいているようです。そのうちでスポーツ人材活用実践支援事業ですか、これにおいて6名を採用していると。残りの1名は学校の用務員の先生というようところで、合計7名の方。はっきり言うと、もうすべてその事業を活用して学校の部活動運営もされているということですね。その他の部活動というのは保護者の協力が大変

大きくて、成績も優秀な成績をおさめられております。子どもたちにとってすばらしい環境にあるのではないかなと推測できるわけですが、いろいろな方にお話をお聞きしたところ、やっぱり何よりも学校からの働きかけが必要不可欠ということでした。これについて、ぜひ私も武雄市ももっと積極的な取り組みを期待したいところでありまして、これについて御答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

外部の方に入っていただくことで、非常に長い目で見ていただくということが可能でありまして、生徒の落ちつきということは当然考えられるわけでございます。また、充実感、体の一番発達するときの運動しての充実感、あるいは一人一人が存在感を持つということで部活等の大事さがあるわけでありまして、今おっしゃいましたように、この事業をできるだけ取り入れてということで学校には指示をしてきたところでございます。全部の部活動のすべてを担当が持つということじゃなくて、どういう形で分担、連携してうまくいくかということで、主体者、そして支援者、どういう形が一番うまくいくのかというのをそれぞれ模索しつつ頑張っているという状況を見ておりますので、今後ともそういうことで推進はしていきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

1 番上田議員

**○1 番（上田雄一君）〔登壇〕**

本当におっしゃるように長い目で見ていただきたい。学校の先生はどうしても転勤等もあって、3年間ずっといろいろ教育というのもできないわけです。できるケースもありますね。

そういう意味で、ぜひ武雄市のほうも積極的に活用していただいて、江北中学校だけで、1つの中学校だけで6名、そういうふうな事業が採用できるということであれば、武雄市内も5校あれば、はっきり言えば30名採用しようと思えば何とかなるところもあるかと思っておりますので、武雄市内の中学校においてもぜひ積極的に活用をお願いしたいと思います。

それでは次に、既に御承知とは思いますが、平成20年3月の学校教育法施行規則の一部改正と中学校学習指導要領の改訂により、中学校保健体育については年間授業時数をこれまでの90時間から105時間とすることとなりました。平成24年度からのすべての中学1、2年生が対象で、武道とダンスが必修科目になると承知しております。平成21年度においては、すべての都道府県ごとに20校、47都道府県ありますので、合計940校において実践するようになっていますけれども、聞くところによりますと、各学校で体育の授業等で取り組んでいる学校はあるけれども、武雄市内の中学校はこの指定には入っていないということがありました。となると、市内の中学校は平成24年度導入に向けて、武道やダンスの必修化に

向けて準備を行っていくということになると思いますが、ダンスにはフォークダンス、創作ダンス、現代的なリズムのダンスというふうにあるようで、武道といえば柔道、剣道、相撲ですね。どちらもこの場合、この中から学校側がどれかを選択することになると思いますけれども、市内中学校の対応がどういうふうに考えられておるか答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、平成24年度からの武道の必修化ということでございます。ダンスも必修ですが、こちらは場所的にも道具的にもそう経費はかからないわけでありますが、武道に関しましては、現在、学校の要望としては北中学校で剣道の要望が出ております。あとの学校につきましては相撲という形で要望が出ております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。おっしゃるようにダンスはどこでもできると言うとおかしいですね。体操服でできると思うわけですよ。ただ、これが武道になると、先ほど答弁ありましたように、北中は剣道、それ以外は相撲という希望が出ているということでもありますけれども、武道になるとどうしてもやっぱり必要な道具というのが出てくるわけですね。剣道だったら防具や小手、竹刀もちろんそうですね。柔道だったら柔道着、今回は相撲が多くなりそうということあれば、相撲もまわしが必要になってきます。体操服だけで相撲というわけにはいかんとは思いますが、その道具に関してはどうしても購入とかを考えていかんといかんちゃんいかなど。部活動の分を流用してという、部活となると多分個人の持ち物になるかなというのがありますので、購入を考えないといけなくなるかなと思うわけですが、その道具に関しては受益者負担の原則があるというのはわかりますけれども、中学校の入学時というのは、どうしてもやっぱり制服とか体操服、かばんからシューズ、学習用具、とにかくいろいろ購入費用がかかるわけですよ。これ市長、ちょっと個人的にお聞きしたいですけど、中学入学時に子どもがどのくらい入学するために費用が必要になると御存じですか。はっきり言いまして、少なく見積もって10万円以上はやっぱりかかるわけですね、保護者の負担が。その上で、さらに保護者の負担になるということになると、ただでさえ所得の低下が叫ばれている中ですので、大変だと思うわけですよ。それにも増して、3人、4人と子どもを育てられている家庭にとってはさらに大変になると。私は子育てを応援、支援していく上では、義務教育において行政が中学入学時に必要最低限の制服とか、かばんというのを支給してやるくらいの補助は考えるべきじゃないかなと思っております。そういう意味からも、ぜひこの武道の必修化等は、なるべく保護者の負担にならないように慎重に検討していただきたい

ということを要望しておきます。

次に、児童・生徒の学力向上のために各学校で研究発表会などが開催されているかと思えます。先日も御船が丘小学校でも開催されました。こちらですね。（写真を示す）御船の国語、修練期。実施されましたけど、武雄中学校でも予定をされておりました。武雄中学校は残念ながら、準備がすべて終わっていたにもかかわらず、昨今の新型インフルエンザによる中止という選択を余儀なくされたわけですけれども、子どもたちの学力向上を目的にした先生方の指導力向上のために行われるこういった研究発表会、年間どの程度行われているのか、これについてお尋ねをしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

市内各学校で校長の方針に基づきまして、知徳体の調和のとれた児童・生徒の育成に力を注いでいるわけでございます。その中で、今御紹介ありましたように、武雄中学校の研究発表会、非常に私としましても特に残念でございました。すべて準備をして案内状も発送して、そして、この内容が、今中学生に必要なキャリア教育で、進路、自分の生き方を考えたというところで研究をしてもらっておりましたので、インフルエンザで中止になりましたけれども、そういう発表会をしていただく予定でございました。それから御船が丘小学校では、先ほど話にありましたように、国語科を中心に、そして実はきょう午後、朝日小学校で、これは文科省の委嘱、指定によります外国語活動、今度から入ってくるわけではありますが、これも試行的に、そして先導的な研究をしていただいて、きょうの午後が発表の予定でございませう。これは県内外から非常に注目を集めて、外国語活動のあり方を模索していただいているということでございます。また、これまでの議会で申し上げましたけれども、武内小学校では夏休みに実際に対話力をつけるための研究をしていただいておりますし、北中校区でも小中一緒になって連携した教育のあり方、川登中学校でも県の指定を受けて研究をしております。トータルとして考えましたときに、この研究委嘱とか指定をお願いすることによって過度の負担になられるんじゃないかということが一番こちらは気にしつつ、そこに無理がないような指導をしながら、そして意義ある、非常に特色のある研究を意欲的にしていただいているというふうに思っておりますし、市内各校もお互いの研究に学び合って、今申し上げた以外の学校におきましても、それぞれのテーマを持ってしていただいているところでございます。

特に、ここでお礼を申し上げたいと思いますが、発表会とかなりますと、保護者の皆様とか、PTA、育友会の方々、地域の方々の御協力をいただかなくてはできないわけでありまして、これだけのことができる本市の教育の基盤ということにありがたく思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私の子どもが通う学校の研究発表会とかという情報はもちろんすぐわかるんですけど、それ以外にもこれだけいろいろ実践していただいているなどというのは本当頭が下がります。余談ですけど、私も参観していたところ、先生たちの熱心な行動というのは大変頭が下がる思いで、私は聞いていて全然わかりませんでしたけど、インスタント食品というのが出ているというぐらいのところだけだったんですけどね、本当にそういう思いがありました。

聞くところによりますと、これは御船の事例になりますけれども、九州一円から学校の先生がお越しになるようなこともあると。お泊まりになられる先生もいらっしゃるということをお伺いしました。大分とか熊本やったですかね、バスで来られている学校等もありまして、先生方の指導力については全国的に取り上げられている問題でもあって、子どもたちの学力向上、あるいは人間性の向上につながるわけですので、武雄市で行われるということになれば、経済効果まで生むようですから、今後もぜひ継続して御尽力いただきたいと思います。

続いて、学校におけるDVについての教育、ドメスティックバイオレンスについての教育がどうなっているかを質問させていただきます。

先日の佐賀新聞でも報道されているように、佐賀県の人工中絶率というのが2008年度、2,305件、2007年度は2,435件ということでした。県内の出生数がおおよそ7,700人ぐらいの数に対してということで、この人工中絶の数というのは極めて大きな数字であるということが言えると思います。この非常に残念な結果をどのように考えるかということなんですけれども、NPO法人DV防止ながさき代表の中田さんという方の講演を拝聴したことがあります。この方の考えからいくと、これは避妊をしないというDVに値するということをおっしゃっております。DVというのもいろんな形態があって、基本的には圧倒的に力が強い者が弱い者を力で一方的に支配する、いわゆる相手を自分の思うように支配しようとすることであり、身体的な暴力以外であっても相手を支配するために行われる行為はすべてDVに値するそうです。身体的暴力のほかに、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力などが代表されるわけで、本来、夫婦間で取りざたされていた問題ではあるんですけど、今は恋人同士のデートDVとしても高校生などにDV被害が及んでいるというふうな報告をお伺いしました。そういうことから、対等な関係というのは、嫌なことは嫌と言える間柄という教育が必要で、そのとき予防活動や教育は中学校までに絶対必要だということをお伺いしました。というのは、NPO法人DV防止ながさきの集計資料で御紹介されておりましたけど、高校生の異性との交際率というのが、女性が大体60%、男性が大体50%ということで、単純に見ておおよそ2人に1人なわけですね。そのうち実に2割の子どもが交際相手によるDV被害に遭ったことがあると答えられております。半分の2割ですから、もう10人おれば1人になるですか

ね。10人の高校生がいたら、1人がそういう被害に遭っていると。これは一人の人間として必要不可欠な理性を持つことや感情のコントロールといったものができていない子どもたちのあらわれだと思えますけれども、武雄市ではこのDVについての教育というのはどのようにとらえ、どう対策を講じられているか、答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

子どもたちが学校に来ましたときに、ふと見て何かあざとか傷とかあったらびっくりする、どきっとするときがございます。DVは表に出ないために非常に対応の難しい面がございます。今もお話にありましたように、中絶の率から、あるいは経済的、社会的なDVまで非常に幅が広いことがあります。現在、DVについての指導という形でカリキュラムができるのか、あるいはさっき話にありました中絶等を含めた性教育のカリキュラムの中で扱うこと、あるいは人権教育は今かなりでき上がったカリキュラムがあるわけでありますので、その中にDVのことを入れていくと。いろんな方策があろうかというふうに思います。これは、その地域の実情、学校の実情に応じて作成していくものになると思えますけれども、これまで以上に保健体育における心身の発達と心の健康、こういう授業、あるいは学級活動の中で男女の相互理解と協力、このあたりに関する授業、あるいは、もう既に講演会等あっているわけですが、外部の方からそういう面での指導を客観的に話していただく、あるいは具体的に話していただく講話、そういうのを計画としてカリキュラムに入れていくということが非常に大事なかなというふうに思っております。この件につきましては、外部からも学校医や産婦人科の先生方の協力も得て、既に性教育を実施していただいているところもありますし、道徳教育、人権教育という面でも対応していく。そして、その大事さが特に重要になってきた時期かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もう全くそのとおりで、こういうDVの被害というのは、デートDVもそうですが、表に出ないとおっしゃいましたが、本当そうなんです。デートDVの状況もいろいろ確認させていただいたところ、基本的にその被害で悩んでいても、これをやっぱり外に一切出せないというのが本音らしいですね。最低でも相談できる相手というのは友人だけと。残念ながら親であり学校の先生でありというのが相談の相手先にまずなっていないという現状もやっぱりあるらしいんですよ。

ですから、さっき中絶率のデータをちょっと紹介しましたが、県内の人工中絶率はとにかく高く、2006年度には10代の中絶率が全国ワーストワンになったという事例もあるわけで

すよ。こういうこともやっぱりDVの一つにもなるということで、そういうことで先ほど御紹介したNPO法人DV防止ながさきさんなども講演なども重ねられているようですし、こちらにおいては国際ソロプチミスト佐賀フレンズの皆さんも同様に、このDV防止というのは大変御尽力をいただいているわけです。ですから、そういう有識者の皆さんのお力をかりることも一つの方法だと思います。

きのうまでの答弁でもありましたように、がん予防の講演などを中学生に対し実施していき、受診の必要性を促すという答弁もありました。これを聞いていたとき、私も子どもが親に対して「お父さん受診行かんばよ」と、受診を促すという言葉聞いたとき、なるほどそうやなと思って感心したところだったんですけど、だから非常にそれも大事だし、こういうDV防止の対策というのも中学生までに必要だと言われると、それもあるほどそうだなと。両方だと中学生も大変やなという気もするわけですけど、ぜひこの場合も、やはり学校、教育委員会との調整というのも必要でしょうし、そういう働きかけというのも絶対必要なことだと思いますので、ぜひ御検討のほどよろしくお願いいたします。

教育について最後の質問になりますけど、御船が丘小学校の件に入ります。

御船が丘小学校の児童クラブ建設に伴う工事がスタートするかと思います。その概要がどうなっているか。計画でいくと体育館の西側に、今既存の道路が通っているところですけど、そこに建設を予定されるということで、学校側の進入経路等がどうなるか、これは前回の議会でも質問させていただきましたけど、ある程度の計画がもう完全にでき上がっているということで、その概要を御説明いただければと思いますので、よろしく申し上げます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

#### ○藤崎こども部長〔登壇〕

おはようございます。

御船児童クラブ新築工事に伴うつけかえ道路等の周辺整備計画について御説明をパネルでしたいと思いますけれども、初めに現況写真のほうがありますので御説明したいと思います。（写真を示す）

御船が丘小学校は下のほうから上がってきまして、こちらのほうが正面、右側の塀で、こっちが左側の塀になっております。現在ここが体育館になっておりまして、体育館の入り口はちょっと隅になりますけれども、こちらのほうから入るようになっております。ここには校碑と卒業記念碑が2つあるわけですけども、現在は下から上がってきたところの、この左側の塀のところの先に、車がありますけれども、ここが現在使われている道路でございます。ここには10台ぐらいの駐車スペースがあります。また、後でパネルのほうで説明いたしますけれども、手前のほうに身障者用の駐車場スペースが2台分あります。

それでは、パネルのほうで計画の説明させていただきます。（パネルを示す）こっちが県

道武雄塩田線のほうから上ってきたところの道路でございます。現況につきましては、先ほどの写真は正面のほうから、体育館のほうを写した写真であります。現在は、点線のところが現況の道路となっております。先ほど言いました校碑と卒業記念碑はこちらのほうにあります。現在このようになっておりますけれども、今回、計画している道路、放課後児童教室につきましては、ここら辺から大きくカーブをとりまして、先ほど左側の正面、塀を言いましたですけれども、塀が正面のほうから見まして右側のほう、こっちが左側の塀ですけれども、左側のほうの、直角に曲がっておりますけれども、こっちのほうは残しまして、1メートルぐらいのところから道路が入ってくるようになります。そして、体育館のカーブのところですりつけるようになります。先ほど言いました2つの碑につきましてはそのまま残ります。そして、現在道路があるところにクラブを2つつくるということで計画しております。こっちのほうは活動室、こっちも1つ、2つ目がこっちの活動室、こちらが玄関になりまして、ここが廊下で、ここがトイレとなっております。子どもたちが活動する場合は、教室はこちらのほうにありますので、道路を横断しなくてこっちのほうから入られますので、安全の面につきましてはいいかと思っております。そしてまた、ここら辺の新しくつくりますつけかえ道路につきましては、桜とか、いろいろな木がありますので、正面入り口塀の前に大きい桜を移設しまして、あとツゲとかいろいろありますけれども、現地のほうに残していきたいというふうな計画になっております。

あとは身障者用のトイレでございますけれども、現在このところに2台と、1台の一般用駐車場がございますけれども、一般用のところに駐車場、身障者駐車スペースとして2台分を確保するようにしております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

パネルまで使っていただき、非常にわかりやすい説明ありがとうございます。さっきの経路を見ている限り、子どもたちの通学にも十分に配慮いただいているなと思っておりますし、ロータリーの動線を見る限り、これまでの身障者用駐車場の位置というのも今の位置より若干南側に移りはするものの、車いすを利用される方もこれは車道に出ることなく、ロータリーに一たん出ることなく、学校への進入スペースも確保していただいているということで安心しました。可能であれば、この時期になりますと、3月、もう卒業式等も控えておりますので、できれば卒業式までに完成してくれればなと思っておりますところもあるんですけど、ぜひ関係の皆さんには頑張ってくださいと思っています。

これとは別に、前回の議会でも質問しましたが、学校の先生とか業者の車の搬入口ですね。進入口というのはどうしても今の校門の坂をロータリーにしてでも通さんといかんと、

もちろんそれはそれでつくってもらって全然ありがたいんですけど、裏の入り口もあるわけですから、そこはぜひ裏からの車の出入りというのもできるようにならないかについても、いま一度検討していただくことをお願いしておきます。（「とめちゃっ」と呼ぶ者あり）とめちゃっですもんね、今。裏から入ると車がもう進入できんようにとめちゃっけんですよ、そこはぜひ開放して学校の先生たちが裏から入れるように、ぜひ検討していただきたいと思います。

それでは、スポーツ振興についてに入りたいと思います。

各自治体では、今、スポーツや文化活動が積極的に行われております。子どもたちや大人を対象とした各種の活動の中には、各競技の協会などと連携してというのもあります。競技力向上のために、そういうトップアスリートから指導を受けられるような仕掛けがあることは大変いいことだと思います。伊万里に女子ソフトボールの日本代表が来たりとか、唐津や小城、佐賀や鳥栖など、こうしたトップアスリートを招いての教室というのも数多く見られるわけでありましてけれども、武雄市でもぜひ考えてほしいという声が上がっております。

今、武雄市では、技術力向上のために関西大学との連携というのも実施されておりますけれども、関西大学との連携も含めてどのように実践されているのか、また今後どういうことを計画されているかというのも答弁願いたいと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

#### ○浦郷教育部長〔登壇〕

今、議員が言われるように、市内の競技スポーツの競技力向上について、いろんな取り組みをさせていただいています。今後の状況につきましては、先ほど言われました関西大学とのスポーツ交流ということで昨年度からやっているわけですが、今年度につきましては夏休みボクシングをやったところでありまして、来年の2月か3月ごろにはバスケットボールということで計画をしていきたいというふうに思っているところであります。それから、来年の1月24日には元ホークスのプロ野球選手、コーチ陣による少年野球教室と池田さんの講演会、これは法政大学の校友会の連合会佐賀県支部と共催という形で計画をさせていただいているところであります。そのほかに、やっぱりいろんな方からの御縁とか、あるいは情報等を寄せていただきながら、スポーツ少年団、あるいは部活動等の連携等を深めながら進めさせていただければというふうに考えているところであります。

#### ○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

#### ○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。1月24日、少年野球教室ということで、法政大学の佐賀県支部の皆さんに御協力いただいと、大変ありがたいことだと思います。これを見た少年野球の子

どもたちが楽しみになってくれるような事業になってくれればよいなと思っております。

それから、先日、社団法人武雄青年会議所のノーマライゼーション事業ということで、黒髪学園の子どもたちと触れ合う機会をいただきました。ノーマライゼーションといっても余り御存じないかもわかりませんが、ノーマライゼーションというのは高齢者や障がい児など施設に隔離とかということではなくて、健常者と一緒に助け合いながら暮らしていくのが正常な社会のあり方であるとする考え方の意味でありまして、こういうふうインターネットのほうでは調べてきたんですけど、その事業で子どもたちとJCメンバーと一緒にあって、ウォーキングやフットベースを楽しんだわけでありまして。

近年の生涯スポーツは、この場合は生涯学習の生涯のライフロングスポーツでありますけど、ライフロングスポーツを従来の競技を改良した形、すなわち障がい、ハンデがある人も行えるスポーツに変化しているわけでありまして。フットベースというのを初めて聞かれた方もいらっしゃるかと思いますけど、これも同様で、今、子どもたちが町子連とかで行っているようなキックベースの改良版だと思うわけですよ。そのフットベースをしながら私たちも大変腹の底から一緒に楽しんできたわけですけど、最後に「また来年も遊ぼうね」と子どもたちからどンドン声をかけていただくというほど、改めてスポーツの魅力というのを感じたわけでありまして。

そういう面から武雄市は、障がいを持つ方のスポーツ振興といいますか、この場合の障がいスポーツというのは、アダプテッド・スポーツという意味です。ライフロングじゃなくてアダプテッドのほうですね。そっちのスポーツ振興に今以上に取り組む必要があるなと感じたわけでありまして。スペシャルオリンピックス日本の活動にもあるように、障がいを持つ方が熱中できるよう、アダプテッド・スポーツの機会の提供を充実させることを考えるべきではないかと思うわけですが、武雄市のこれまでの取り組みなどをお聞かせ願いたいと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

#### ○浦郷教育部長〔登壇〕

近年の生涯スポーツは、従来のスポーツ競技を改良した障がいがある方でも行えるスポーツということで、今議員のほうから紹介があったように、今、本当にだれでもが行えるスポーツに改良をされているというふうに思っています。

そういうことで、武雄市としては平成21年度に体育指導員の皆さん方の御協力で、武雄市の手をつなぐ親の会、ニュースポーツ交流会、これを9月27日に参加者60名で開催をされているところであります。あと、知的障がい者の皆さんもその中にも参加をいただいていますし、それから武雄市の第8回の障がい者スポーツ大会の協力、こういうものをスポーツ指導員の皆さん等がいただいているというふうな状況にあります。

近年のニュースポーツの普及により、だれでも体を動かすということが可能になってきておりますので、スポーツ人口のみならず、障がい者の社会進出への一助になるようにということも考えながらやっているところでありまして、その一環としては、もう既に御存じのように総合大型地域スポーツクラブ、武雄スポーツクラブへの加入促進、こういうこともやってきているところでありまして。それから、さわやかスポーツ・レクリエーション祭への参加促進、こういうこともやらせていただいています。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私の勉強不足で、さまざまなことに取り組まれているんだなと実感をいたしたわけでありましてけれども、先ほどの答弁の中でありましたように、今年度から武雄市体育指導員の皆さんの御協力によっても積極的に努めていただいているということですね。体育指導員の皆さんはふだんの仕事の合間を縫ってそういう活動をされているというわけで、本当にこれも頭が下がる思いであります。私にも協力できることがあれば、ぜひ誘っていただければと思います。

武雄市からオリンピック、またパラリンピックに出場するような選手が日本を代表して出てくればなと思っておる次第であります。障がいを持つ皆さんの目標や、また励ましになるような武雄市につなげられれば、より一層明るい社会になると思っております。そういうアダプテッド・スポーツの振興を行う上で、今後考えられる課題というのはどのようなことが考えられるのか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

課題として、今後推進していく上で、先ほど言われました指導の面についても充実するのは当然のことですけれども、特に障がい者の方につきましては施設の改修というのが、やはり今までの施設の中での特にトイレ等につきましては、健常者を中心に考えたところのトイレ等になっておるところであります。こういうものの改修をやったりやっていかなければならないということと、それと、これについて全体的に、社会全体として協力をしていただくということでイベント的にやっていくことも必要だというふうに思っています。こういうものを中心にしながら、バックアップ、あるいは手助け、こういうものができていければなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ここでも施設の不備というのはやはり目につくわけですね。これは主にトイレのことにはなるかと思うんですけれども、それとは別に人材面でもということであれば、体育指導員、また、そのボランティアスタッフ、これをやはりもっと広く公募して行うという仕掛けは必要かなと思っております。積極的に広報していただきたいなと思うわけです。やはりそういう気持ちがある人というのは、まだまだたくさんいらっしゃると思うわけですよ。私も青年会議所の事業に参加させていただいて、もう本当に十分それは身にしみたところもあります。これは武雄青年会議所の今年度の理事長の所信から引用しますと、「人はみんな違って、みんないい」と、もうまさしくそのとおりですもんね。それをぜひ推奨しながら、真のバリアフリーを目指して行ってほしいものだと思っております。

それでは、続いて中心部について入りたいと思います。

主に武雄町のまちづくり推進協議会の懇談会からの話にはなってきますけど、武雄町の公民館設置の要望があります。それは初日の一般質問で行われておりました。それに対し、今後の案としては、中学校敷地内への新築も考えられるという答弁がありました。単純に考えれば、今の敷地では手狭になるんじゃないかなと思うわけですよ。駐車場も充足しているわけでもなければ、敷地がそんなに広いというふうな考えでもない中で、今の敷地だけでどういうふうになるのかなと。これについては、今、少子化の影響というのものもあるかもわかりませんし、また青陵中学校の絡みというのものもあるかもわかりませんので、新たな土地を確保するか、また、今遊んでいると言うとおかしいですね、体育館の東側の重箱堤を埋め立て、防火水槽を縮小することも考えたりとかというのもしないといけないのか、先ほど言いましたように生徒数が減っているの、校舎が今までと同じような規模では必要ないと。だから、それ自体を縮小して建設をするというのか、そこら辺がいろいろ考えられるんじゃないかなと思うわけですけど、今あるものにさらにプラスしてとなるとどうしても敷地の面というのは気になるわけでありまして。これについて、今、中学校の建設がどういうふうに考えられているのか、教えていただければなと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

#### ○浦郷教育部長〔登壇〕

御存じのように、武雄中学校の建設、特に普通教室等の改築が平成22年度からということで、今、基本設計をやっているところであります。今のところ、現敷地の中で、全体的な設計を考えているところであります。先ほど言われました重箱堤につきましても、地元の理解がどうなのか、そこら辺はまだわかりませんが、そういうことも考えていけるのかなということは思っております。ただ、議員言われるように生徒数が減ってきているのは確かでありまして。今現在の状況は、普通教室と4階建てであります。普通、都会とは違って4階建てというのはどうかなということで、我々としてはせめて3階ぐらいまでに抑えたいとい

うことを今考えているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

まさしくそこら辺ですね、体育館東側の防火水槽というのは利用しているのは私たちでありまして、はっきり言って、ポンプで水を揚げるときはその防火水槽しかちょっと使うところはないわけですよ。ただ、そういうふうな事情があるのであれば規模を縮小するということも考えないといけないんじゃないかなというのがありますし、何しろ生徒数が減少しているというの、武雄中学校の校歌は「集う二千の生命あり」というような歌詞がありますけど、諸先輩方から聞くと、2,000には届いたことはないという話も聞いたこともあるんですけど、今、1 学年で二百四十、五十人ぐらいの生徒で、3 学年ですので、もうはっきり言うと1,000にも届いていないような生徒数にはなっているかと思うんですけど、その中で青陵中学校もあってということになれば、本当に生徒数が減っているのは目の当たりにはするわけですけど、ぜひ武雄町民の長年の願いでもある武雄町の公民館というのは、ぜひ積極的に考えていただきたいなと思いますけれども、これについて、市長、どのように考えますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

一般の武雄町のまちづくり協議会で、私から、本当に新しい土地に新しい建物をつくるというのが武雄町民の望みだと思うんですけども、今までそれでやっぱり時間がかかってきたということもありますので、一つの案といたしまして、今の武雄の文化会館をそのままキーとして使っていただいて、あそこは場所としては僕は最適だと思うんです。必要な改修をして使っていただくと。ただ、公民館利用者の方、武雄町民の方からどうしてもやっぱり場所が足りないということ、これは上田議員からも話がありましたので、どこかないかという話で、さきの協議会で武雄中の敷地が考えられるんじゃないかということをお願いしました。これは結構反響がありまして、私といたしましては多聞第一、さまざまな方々に、武雄町民の方々に耳を傾けていきたいと思っております。本当にあの場所でもいいのか、あるいはどういう機能が必要なのかを含めて聞いていき、そして、この前答弁でお答えいたしましたように、早くて来年の春に方針を出していきたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの教育のところでも申し上げましたが、学校の外部指導員の話もあって、やっぱり今の学校の現場の中にも社会教育といいますか、公民館を入れるということも、またそれにもつながって相乗効果が生まれるんじゃないかなと思いますので、ぜひ積極的に考えていただきたいと思います。

続いて、公園整備についてであります。公園整備の要望もその際に数多く出されておりました。はっきり言いまして、中央公園の遊具を撤去したことに對する不満などの声も聞こえておりましたね、そのとき。市長もそのときも丁寧に御説明をされていたわけですが、公園整備についての考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず公園整備の前に、今の市役所の前の中央公園がどういう状況になっていたかと。もう本当に私自身も立ち入るのが嫌になるぐらいこうなっていたところを、ぜひ出発点としてお考えいただきたいと思います。そして、私は、多目的は基本的に無目的になるというふうに思っているんですね。やはりきちんと一つの目的を持って公園は整備するというのが私たちの基本的な公園整備の方針であります。そうやってきたときに、私もブログで出して、これも非常に反響を呼びましたけれども、夕方時間があくと子どもたちと一緒に遊んでいます。というか遊ばれています。この前キックベースをしたりとか、ドッジボールをしたりとか、となると、あそこに例えば遊具を置くと、そういったことができなくなっちゃうんですね。今、夕方、大体子どもたちが遊んでいる。あと、きょう中学生も来ていますけれども、あそこが高校生の通学路にもなっているという状況からすると、私は今の整備はもうベストだと私自身は思っておりますし、実はそちらの声のほうが大きいです。来た子どもたちに、利用する子どもたちに「あんたたち遊具要るね」と聞いたら「要らんばい」と。それよりも今の芝生が物すごく気に入っているということを聞いていますので、これはやはり子ども目線で考えていく必要があるだろうというふうに思っています。ただ、この前お話が出ましたように、やはり遊具は必要だと思っております。ですので、今後、敷地の横に、また代替地として公園ができますので、そこにはきちんと遊具を入れていくということは思っておりますので、それをもってぜひ利用者の方々、これはお母さん世代もそうだし、子どもたちもそうですけれども、よく使い分けてしていただくということが私は子どもたちの福祉の維持向上につながっていくものと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

中央公園の考え方というのは、私も結構市長に同感する部分があるんですよね。というのも武雄UC、ユナイテッドチルドレンのファーストプロジェクトで中央公園を利用したわけですよ。あれもやっぱりあれだけの整備をしていなかったら、多分あそこでやろうという気には子どもたちはならなかったかなというのもありますし、今あそこを利用されている方というのは、中学生とか高校生、小学生がボールを使って遊んでいるというのが私もよく目につくわけですよ。だから、その中央公園の中で一つ考えてやれることというのは、ちょっとした壁をつくってやるというのはどうかなと思うわけですよ。遊具じゃなくて、中央公園においては。というのは、私は子どものころ、近所の企業の駐車場でよう遊びよったわけですよ。そのときに石畳の壁があって、そこにボールを投げたりけったりして1人で遊びよった記憶があつとですよ。野球をするときにもその壁がキャッチャーになったりするし、サッカーだったりすれば、それがゴールになったりとかするし、今、市内の公園でボールを当てて遊べるような公園がどこかあるかなと考えたわけですよ。今、立地上からいけば、道路に挟まれ、川に挟まれというふうになっているんで、そこにちょっとした壁ば入れてやるというのは一つの方法かなと思うわけですけど、それについてどう考えますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、子どもたちとこの前ちょっとゆっくり話す機会があったので、「あんたたち壁要るね」と聞いたら「壁要るばい、おじさん」と言われました。ですので、ああそうなのかということ、やっぱり子ども目線でとらえたときに上田議員の御指摘のとおりだと思いますので、ただ、あそこに備えつけになると、ほかちょっといろいろ問題が出るかもしれませんので、可動式、可動式のものがあるかどうか、きのうインターネットで実は見ていたんですけども、ちょっとなさそうであります。ですので、やっぱりいろんな遊び方があって、あそこに本当に壁があると、ちょっと何と言うんですかね、ぼーんと見晴らしのよかけんが防犯上とかもすごくよかわけですね。ですので、そういったことも含めて、ちょっと壁は基本的に壁にならないように考えていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

可動式の壁とかという発想が私にはありませんで、びっくりしたところでもありますけど、そういうふうにおっしゃるように、子ども目線というのは本当に必要だなと、もう十分私も痛切に感じておる次第であります。私も子どものころ、そういうふうに参加していた中で遊具についてですね。そのとき、まちづくり協議会の中では、SL公園の既存の、武雄東遊園ですかね、正式名称よりも……（発言する者あり）児童公園、SL公園しかみんな知らんわ

けですよ、名前は、はっきり言うと、町民の皆さんは。そいけんSL公園というふうにちょっと言わせていただきますけど、そのときの答弁では、ぜひ既存の公園の遊具、SL公園が上がっております。そういったところの遊具を使ってほしいということでありまして、SL公園で考えた場合、今、残念ながらSL公園には駐車場というか、駐車スペースというのが全くなかわけですね。その声が帰り際もお母さん方の行きよんさったときに、SL公園は車もとめられんとどがんで行って私たちに言って言うというような声も上がったわけですよ。やっぱり今の車社会において駐車場がないというのは本当に厳しいわけで、遊具で遊ぶとなるとやっぱりベビーカーなり、車だったりという、小さい子どもが結構ウエートを占めてくるかなというところもあるわけで、となるとやっぱり駐車スペースというのがないというのは使い勝手が悪いのかなと。ただ、これ市内の公園とか見渡すと、ほとんど公園に管理者用の駐車スペースというか、駐車場じゃなかですけど、1台から2台、駐車スペースというのが確保されとるわけですよ。話を聞くと、公園の管理者用のスペースだということではありますけど。今のSL公園で考えた場合に、清掃をするための車とか、樹木の剪定とか、そういった作業で来られる車というのはどこにとめんさつとかなと考えるわけですよ。それも考えると、やっぱり利用者も使えるように、SL公園に管理者用の駐車スペースというのを設置するべきじゃないかなと思うわけですけど、余りコストをかける必要もないと思うんですよね。今、入り口を例えば歯どめを移設して車をとめられるスペースをちょっとつくるか、利用者のことを考えると、そういうことをちょっと考えるべきじゃないかなと思うんですけど、これについてどう考えますか、答弁願います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

実はきのう議会が終わって、SL公園に行ってきました。最初は要らんかなと、実は思っていて、そういう答弁をしようかなと思っていたんですけども、私がじっと見よったら、たまたまお母さんが寄ってきんさったですもんね。若いお母さんが寄ってこらして、「これはどがんですかね、駐車場やっぱりあるぎ助かっですか」と聞いたら「非常に助かる」と。そして、「何でですか」と聞いたぎですね、やっぱりさっき話の出たベビーカーなんですね。今のお母さんたちというのは、結構車で買い物ばしながら、公園に行って、そしてまた車でということで聞き及んでおります。そういったことからすると、きのうずっと見て回ったら、SL公園の東側のところにデッドスペースのあるですもんね、スペースがある。そこに2台分ぐらいとめらるつとですよ。ですので、私は、きのう答弁で申し上げたように、駐車場を新たにつくるのは反対です。しかし、既存のスペースで、デッドスペースのようなところで使えるようなものについてはきちんと使っていくと、あるものを活用するというのは樋渡市政の根幹でありますので、それはぜひ、やっぱりこれは検討の余地はあるなと思っており

ますので、もう一回、上田議員と一緒にその場所でいいのかどうかも含めて、また見たいと。それで、ここの場所でいいのかも含めて、お母さんたちにちょっと検討してほしいなというふうに思っております。もし、お父さんもそうですけれども、お母さんたちがこれでいいということであれば、それは積極的に整備を進めていきたいと。お父さん、お母さん目線に立って進めてまいりたいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

1 番上田議員

**○1 番（上田雄一君）〔登壇〕**

日程さえ言っていただければ、スケジュールを合わせて私も同行しますので、ぜひよろしくをお願いします。

続いて、国道34号線バイパスの話になりますけれども、山内方面に向かっていると右側にめん勝さんとか木寺石油さんとかがずっとあって、これを直進しようが左折しようが、とにかくあそこは一たん渋滞するわけですね。これは、その先に2車線から1車線に幅員を減少させているせいで、これも先日の協議会の懇談会の中から出ておりましたけど、ぷらっとさんとかユートクさんとかという商業施設があるのに、やっぱり山内方面に向かいよって、すぐ左折すれば何てなかつころですもんね。そいばってん、その前に2車線ば1車線に減少させてあるけんが、どうしてもそこで渋滞にもなるし、はっきり言うぎ、入れてくださいとか、どうぞとかというごたっふうな連続で、どうしてもあそこは渋滞が続くわけですよ。いろいろ考えよったとばってんが、あそこは何て言うのですかね、ずっと行くと朝長商店さんの前のガードレールですね、あれさえ外すぎんた何てなかつけにゃとは思ってますけど、このときも声が出ておって、部長もいろいろ御答弁されておったかと思うんですけど、これが最終的には各機関ともちょっと協議をしますというような形やったかと思うので、その後の経過はどういうふうになっているか、答弁願いたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

先月の11月4日の武雄町まちづくり推進協議会ですね、ここでもその要望は確かに出ました。そして、そのときも協議しますということでお答えしとったわけですが、その後、佐賀国道があそこを管理しております。ですから、佐賀国道と要望かたがた協議というか、どがんかできんですかという形でお話ししたところが、どうしても堂島交差点までの距離が近過ぎると。堂島交差点までの間に2車線から1車線に絞らにゃいかんわけですね。ですから、車線減少の予告をまず出さにゃいかん、それでもう100メートルぐらいはとられるわけですね。その後に減速車線とか滞留車線とか、交差点のことをせにゃいかん。そういうことで、あそこでどうしても今言われたあのガードレールを外せば、左だけに行く人はいいでしょう

けど、あそこに間違っただ直進が入ってきたとき、どうももう行かれんごとなるわけですね。ですから手前で、ユートクさんのほうに行くとき、あの交差点の前でどうしても絞らにやいかんということから、佐賀国道も公安委員会と協議してあのガードレールを決めたということで、今の段階で堂島交差点が改良されん限りは、私が要望した分については難しいという回答を得ています。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

おっしゃっている意味はよくわかります。ただ、ばってん、できない理由よりもできる理由を考えた場合ですよ、武雄高校のところからでもその左折レーンば全部表示してでもそこを左さい曲がらるっごとすっぎよかっちゃんかかなという素人目線の考えもあるわけですよね。もちろん私はその考えですもんね。もうその朝長商店前のその交差点、下西山東交差点までをとにかく左車線はもう全部左折専用レーンにしてしまっただ考えてもいいかなと。それでも、その先の堂島交差点でまた減少させんばいかんとなるなら、それももう、じゃ、そのまま真っすぐ左車線に34号線道路でずつつなげてしまえば解決するっちゃんかかなというような考えもあるんですね、35号線との兼ね合いまで考えると、いろいろまたどういふふうな接続を考えるかというところが出てくると思うんですけど、まず34号までのところで考えれば、私はもっと強う言うていってもよかっちゃんかかにかんと思ふところはあるんですけど、ぜひその辺は考えていただきたいなと思っております。

すみません、それでは新幹線について。これももう答弁等も出ております。二転三転したけど、何とか実現できそうであると。ただ、単線のままだと普通列車にも影響が出る可能性もあるという答弁もありました。これはただ普通列車に影響が出るとなると、今の普通列車を利用しているのは高校生がほとんどだと思ふわけですよ、通学で利用されているのが。それもそのはずで、武雄にはもう武雄高校しかなかわけ、電車によって、またバスによって別のところに通学している子どもたちが多数いるかなと思ふわけで、交通弱者である学生に影響が出ては困りますので、必ず複線化というのは、市長、どんな手を使ってでも必ず実現していただきたいと思っております。

それとは別に、まちづくりの観点から、今のまま黙っていたらストロー化現象が起きるのは間違いないと私も再三申し上げております。これについては商工会議所や新幹線活用プロジェクトなど、さまざまな取り組みがなされているわけで感謝する次第であります。常に見据えての行動には頭が下がります。私自身もこれにちなんで武雄温泉駅を交通の結節点にしなければいけないのではないかと考えておるわけでありまして。空港で言えばハブ空港、広域で見た場合、武雄の観光に合わせて有田や伊万里などに行くにも便利ないようにやっぱりせんといかん。常に玄関口が武雄になると。例えば、松浦鉄道なんかも武雄温泉駅まで引

っ張ってくるとか、循環バス、またはタクシー、レンタカー、いろんなバス、とにかくそのすべての交通の拠点が武雄になるというような考えをしないといけないんじゃないかというような、交通網の整備について大きな視点に立った考えが必要ではないかと思うわけですが、それに対する市長の考え等もちょっとお聞かせ願いたいなと思いますので、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ただ単に、例えば駐車場をつくるとか、ただ単にそこに待合のハードなスペースをつくっても、それは多分ストロー現象を加速させるだけだと思います。武雄はチャンスだと思います。というのも、今度、新たに新武雄病院が駅のまあま近くに行けると、そうすると、まず医療ですので、市民の命、健康が第一であります。この前提は譲れません。しかし、第2、第3として、医療と観光を結びつける。そうすると福岡から本当、ワンストップ、そして乗り入れがあると広島、大阪から来られるわけですよ。それともう1つは中国です、ニーハオ、中国の皆さんたちが今何を求めているかということ、やはり日本の高度な救急救命医療なんですね。それと高度な検査なんですよ。私は中国に1回しか行ったことありませんけれども、上海の人たちが日本に何を求めているかということ、やはり医療なんですね。ですので、そういったこともカバーできるようにすると、医療と観光がセットにできる。そして、武雄は、きのうNHKの公開の歌番組の収録がありました。司会者の渡辺徹さんが何を言ったかということ、「武雄温泉は有名ですもんね」とおっしゃいました。あるいは、NHKのアナウンサーの首藤奈知子さんが「いっぱい焼き物がありますもんね」ということを皆さんの前でおっしゃいました。これは多分テレビで流れます。そうなってくると、そういう来た人たちと医療と温泉と陶磁器、あるいはゴルフ場があります、あるいはおいしい食べ物があります、そういったことを結びつけると、これはストローではなくして引っ張ってくる、吸引すると。そうやってきたときに、真に武雄温泉駅は私はハブとして名立たるものになると思っておりますので、ぜひそういった形で経済面、あるいは新幹線と1足す1は10になるようなセットをするのが私の首長力の仕事だと思っております。これはあわせて議会力もあります。私は提案権しかありません。議会が適切な御議決をいただいて、市民の皆さんたちに夢を持っていただく、夢を与えるということが我々に求められていることだというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

熱い思いをお伺いできまして、大変心強く思っております。

最後になります。昨日も出ておりましたけど、下水道事業についてであります。昨日、接続率が17.6%という答弁もなされているわけでありまして、こうしている今も西浦通りのところですかね、なお工事が進められており、来年度に供用開始になる地区というのものもあるわけですよ。そんな中、今の料金、5立米までは1,000円、5立米以上は2,000円、10立米を超えるごとに1立米当たり150円が加算されるという今の使用料金設定でありますけれども、下水道計画地区には民家はもちろんあるんですけども、これは数多くの事業所もあるわけですよ。職種によっては水を大変多く使用される事業等もあって、そういう皆さんというのは下水道に接続したくても、初期投資もかかる上、さらにランニングコストまで上がることが前提になれば、やっぱり接続したくても二の足踏むのかなと思うわけですよ。ですから、ぜひそういう事業者の皆さんが接続したほうがよか、せんばいかんと、もちろんこれは環境のためというのが一番大前提にあるんですけど、やっぱりどうしても初期投資もかかってランニングコストまで高くなるとなっぎ、どうしてもやっぱり二の足を踏むと思うですよ。それについて、ぜひ使用量によって特例等も考えていただきたいと思うわけですけど、これについて御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにそのお声は事業者からも伺っておりますので、私どもで1回、直接お話を聞かせていただきたいと思います。私どもといたしましては、先ほど上田議員からありましたように、やはり環境の面、それと負担コストの面ということを考える必要があるだろうと思っておりますので、一たん聞かせていただいて、そしてまた議会に御相談をさせていただきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

心強い答弁ありがとうございます。

これは太陽光発電のシステムとかも一緒だと思うわけですよ。やっぱり初期投資かかって、それで生まれた電気を電力会社が購入していただくと、そういう電気料金にも反映されるけんが、やっぱり環境のことも踏まえて一石何鳥とかですね、そういうふうに見えるから、やっぱり太陽光発電の応募というのは殺到したわけでしょう、もともと計画されていたよりもですね。下水道というのもやっぱりそこを考えて、環境のこともあるけど、自分たちもこれば今初期投資をしたほうが良いというような状況をつくるべきだと私は思いますので、ぜひその辺御検討いただきまして私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます

いました。